

【履修上の留意事項】【面接授業と遠隔授業の併用実施】

《担当者名》○教授/齊藤 正人 准教授/広瀬 弥奈 講師/八幡 祥子 講師/倉重 圭史
 講師/村田 幸枝 助教/福田 敦史
 非常勤講師/下野 正基

【概 要】

本科目は、小児の心身の発育、歯科領域に関連した顎顔面の発育、歯の発育と障害、歯列及び咬合の発育、乳歯と永久歯の交換現象、乳歯齲蝕、小児の口腔軟組織、歯周疾患、思春期歯科及び小児疾患等について学習する。

【学習目標】

小児の心身の発達の概念を理解し、小児に対応した時、発達の程度及び異常、また、精神的・運動機能と年齢との関係を説明する。

小児の一般的な情緒の特徴、ものの考え方などを理解し、小児に対応できる基礎的事項を説明する。

頭蓋及び顎顔面部の発育の基本的事項を説明する。

歯の発育段階を乳歯、永久歯に分け、各々歯胚発生から歯根完成、乳歯の場合は脱落までの歯のlife cycleを説明する。

歯の形成障害を引き起こす種々の要因について説明する。

歯列および咬合発育の各段階、正しい状態と異常な状態を説明する。

乳歯の役割、一般的な特徴、また永久歯との相違について説明する。

小児期の齲蝕、特に乳歯齲蝕の疫学的推移、臨床的な乳歯齲蝕の特性、齲蝕の弊害について説明する。

幼若永久歯の定義及びその臨床的特徴を理解し、齲蝕予防、齲蝕処置、歯内療法処置等についての概要と処置法について説明する。

健康な小児の歯周組織の状態と歯周疾患について説明する。

小児患者の心身発育を理解したうえで診療時に表出する小児の行動を理解し、小児患者への基本的対応法を説明する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	第1章 小児歯科学の意義と目的 1. 小児とは 2. 小児歯科学の意義 3. 小児歯科学の目的 4. 小児歯科の特徴 5. 小児歯科に携わるものの責任	- 小児歯科学の定義、意義、目的、他科との相違点などについて学び、歯科医学領域の中の小児歯科学の特徴について説明できる。 (E-4-2) ○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.1-7	齊藤 正人
2	第2章 心身の発育 (1) 1. 発育総論 2. 小児の成長 3. 小児の発達	- 小児の歯科臨床においては、患児が常に成長発育を継続している個体であることを基に対応について説明できる。 (C-3-2)- , () - 小児期の分類、発育の評価、生理的年齢、身体発育の特徴、Scammonの発育曲線、生理的特徴等について説明できる。 (C-3-2)- , ()、(C-3-4) ○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.10-30	福田 敦史
3	第2章 心身の発育 (2) 3. 小児の発達 4. 小児の生理的特徴 5. 小児の栄養	- 精神的発達、原始反射、ことばの発達、恐れ等について説明できる。 (C-3-2)- () - 小児歯科臨床に必要な小児の成長発育、発達心理について説明できる。(C-3-2)- () - 小児の栄養、その摂取法について説明できる。 (B-1- ()) ○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.20-38	齊藤 正人
4	第3章 頭蓋と顎の発育 (1) 1. 頭蓋の発育 2. 顎の発育 3. 顎関節の発育	- 頭部、顎、顔面の発育について説明できる。 (E-2-3)- () ○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.40-48,53-56 - 顎関節の形態と機能の成長・発育に伴う変化を説明できる。 (E-2-3)- ()	福田 敦史

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.46-48	
5	第3章 頭蓋と顎の発育 (2) 4. 口腔機能の発達 5. 発育の評価	● 原始反射で始まる摂食機能(吸啜、咀嚼、嚥下)の発達について説明できる。 (E-2-3)- () ○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.49-54 ● 発語機能の発達について説明できる。 (E-2-4)-(11)- () ○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.54-65	福田 敦史
6 { 7	第4章 歯の発育と異常 1. 歯の形成 2. 歯の形成異常 3. 歯質の異常 4. 形態と構造の異常 5. 歯の色調異常	● 歯胚の形成から歯の形成と歯の形成障害について説明できる。 (E-3-1)- ~ () ○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.68-96	福田 敦史
8 { 9	第5章 歯列及び咬合の発育と異常 1. 歯の萌出 2. 歯の萌出異常 3. 歯の萌出に関連した異常 4. 歯列・咬合の発育段階 5. 歯列・咬合の発育 6. 歯列・咬合の発育異常	● 出生直後の歯が萌出する前から、乳歯列期、混合歯列期を経て健全な永久歯咬合が完成するまでの咬合発育を各段階毎に分けて学び、各段階の特徴について説明できる。 (E-2-3)- , () ● 無歯期から乳歯萌出期、乳歯咬合完成期にかけての小児の歯列・咬合の特徴について説明できる。 (E-2-3)- , () ● 混合歯列期の小児の歯列・咬合の特徴と要点、乳歯から永久歯への正常な歯の交換について理解する。 (E-2-3)- , () ● 歯列及び咬合の正常な発育を阻害する因子としてどのようなものがあるかについて学ぶ。特に、健全な永久歯咬合を育成するうえで乳歯の果たす役割について説明できる。 (E-2-3)- , () ○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.98-124	齊藤 正人 福田 敦史
10	第6章 乳歯・幼若永久歯の特徴 1. 乳歯 2. 幼若永久歯 3. 乳歯と永久歯の比較	● 乳歯の解剖学的・組織学的特徴について学び、歯科診療上どのような点に注意しなければならないかについて説明できる。 (E-3-1)- , () ● 成熟永久歯と比較した幼若永久歯の特殊性、歯科診療上の注意点について説明できる。 (E-3-1)- , () ○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.126-139	齊藤 正人
11	第7章 小児の齲蝕 1. 齲蝕の病因論 2. 小児期の齲蝕の特徴 3. 小児の齲蝕の為害作用 4. 齲蝕の検査法と診断	● 歯科診療上理解しておくべき乳歯齲蝕の疫学的特徴、臨床的特徴について説明できる。 (E-4-2)- () ● 幼若永久歯の齲蝕の特徴を、幼若永久歯の特殊性と関連して理解し、それについて説明できる。 (E-4-2)- () ● 乳歯が果たしている多様な役割を、小児の身体的・精神的な発育の中で捉え、理解し、それについて説明できる。 (E-4-2)- () ● 乳歯の持つ役割が齲蝕により阻害された場合に小児の心身発育に及ぼす様々な悪影響について、局所的・全身的に分けて説明できる。	齊藤 正人

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		(E-4-3)-) ○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.142-153	
12	第8章 小児の歯周組織と歯周疾患 1. 正常な小児の歯周組織 2. 小児・若年者の歯周疾患 3. 歯周疾患の診察・検査と診断 4. 歯周疾患の予防・処置	● 小児の歯周組織の特徴と、小児期にみられる各種の歯周疾患について説明できる。 (E-3-1)- , (E-3-2)-) ○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.156-170	齊藤 正人
13	第9章 小児への歯科的対応 1. 小児患者の心理 2. 小児・保護者・歯科医師の関係 3. 歯科的対応の実際 4. 年齢別対応法 5. 行動変容技法 6. 抑制的対応法 7. 前投薬 8. 精神鎮静法 9. 全身麻酔法	● 小児の精神発達の特徴や恐れの対象、ものの考え方などが、歯科治療の場面でどのように現れるか関連付けて説明できる。 ● 患者対歯科医師のみならず、保護者対歯科医師、患者対保護者の関係までも視野に含める必要がある小児歯科診療の特殊性について説明できる。 ● 上記を踏まえたうえで、小児に対する実際臨床上の対応法を、歯科治療に適応できる小児と適応できない小児の場合に分けて説明できる。 (E-4-2)-) ○「小児歯科学ベーシックテキスト」P.172-182	齊藤 正人
14	まとめ・定期試験対策	● これまでの講義内容の理解度を確認するために、小テストの実施と解説を行い、学生自身の理解度を評価できる。	福田 敦史
15	課 題	● これまでの講義内容の理解度を確認するために、プリント配布し、学生自身の理解度を評価できる。	齊藤 正人 福田 敦史

【評価方法】

定期試験（90％）、小テスト（10％）

・定期試験のフィードバックは、「小児歯科学 各論」の第1回目で行う。

【備 考】

教科書 ：「小児歯科学ベーシックテキスト」永末書店
その都度講義プリントを配布する。

その他 ：個人情報（患者情報）保護のため、スライドや講義内容などの写真撮影・録音を禁ず。

【学習の準備】

予習として、指定した教科書の項目を事前に必ず読んでおく。（45分）

復習として、前回学習した内容について指定した教科書の項目を読んでおく。（45分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために小児歯科学を学修する（専門的実践能力）。

DP2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を小児歯科学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を小児歯科学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために小児歯科学を学修する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために小児歯科学を学修する（社会的貢献）。

【実務経験】

齊藤正人（歯科医師）、広瀬弥奈（歯科医師）、八幡祥子（歯科医師）、倉重圭史（歯科医師）、村田幸枝（歯科医師）、福田敦史（歯科医師）、非常勤講師／下野正基（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

小児歯科学とは、小児の口腔機能の正常な発育を図るために、これを障害する異常や口腔疾患の予防と治療を行い、健全な機能をもつ総合的咀嚼器官を育成し、小児の全身的发育と保健に寄与する科目である。多くの実務経験を背景とした経験談や症例を提示することで、優れた教育効果が期待できる内容となっている。